

令和6年9月24日（火曜日）
予算決算委員会文教・子育て分科会
第2委員会室

出席議員

山口 悟、金内義和、西本眞造、蔭山敏明、
石堂大輔、萩原唯典、三浦充博、牧野圭輔、
谷川真由美

【文教・子育て委員会（教育委員会）の審査】

再開 **11時31分**

教育委員会 **11時31分**

送付議案説明

- ・議案第 96号 令和5年度姫路市一般会計決算認定について
- ・議案第107号 令和6年度姫路市一般会計補正予算（第5回）

質疑 **11時36分**

(質問)

学校給食費徴収金について、約 2,619 万円の収入未済額が発生しており、令和 5 年度の約 1,691 万円から大幅に増加しているが、給食費の公会計化の影響なのか。

(答弁)

収入未済額の内訳は、現年度分と過年度分がある。決算時点では児童手当からの徴収が間に合わなかったが、その後の未収金は 1,100 万円程度に減少している。

(質問)

来年度には未収金が令和 5 年度の水準に戻るという認識でよいのか。

(答弁)

これまで以上の未収金対策を進め、回収率の向上を図っていきたい。

(質問)

未収金対策について、督促状や電話などで行っていると認識しているが、給食費の公会計化の前後で変わりがないのか。

(答弁)

公会計化の前は担任教諭がクラス分を集め、未納の場合、電話や家庭訪問を行い徴収していた。

しかし、公会計化後は、教育委員会において保護者から徴収している。

(質問)

私が子どもの頃は、給食袋に現金を入れ直接集めていた記憶があるが、担任教諭はどのような方法で集めていたのか。

(答弁)

口座振替による徴収である。未納の場合は再度の振替となり、それも未納の場合に現金で集金していた。

(質問)

徴収に係る業務負担が軽減されることはよいが、公会計化後は、担任教諭がどの家庭が未納であるか分からなくなり、経済的に困窮している家庭の情報把握ができなくなることを懸念するがどうか。

(答弁)

委員指摘の懸念事項はあるが、学校が直接保護者の口座から教材費や P T A 会費などの様々な徴収金を引き落とす仕組みが残っている。これらが引き落とせない場合は児童手当で対応する措置が取られており、経済的に困難な状況にある家庭は把握できている。

(質問)

教材費や P T A 会費も、将来的には公会計化が進む方向なのか。

(答弁)

教材費等は学校が保護者から委託を受けて運用しており、現時点では公会計化は検討していないが、教員の負担軽減のために事務の外部委託の検討などは行っている。

(質問)

学校給食費徴収金の収入未済額について、児童手当からの徴収後も 1,100 万円程度残っていることだが、詳しく説明してもらいたい。

(答弁)

公会計化により、担任教諭が保護者と接する機会が減り、市と保護者との距離感から生じる未納が増える傾向がある。

今年度未納分の約 700 万円に昨年度分の未納額を合わせたものが約 1,100 万円である。

今後、電話や督促状送付により徴収を進めていく予定である。

(質問)

児童手当を受け取っているにもかかわらず、なぜこれだけ多くの人たちが給食費を払えないのか疑問である。就学援助の必要な家庭は、全て手続を行っているのか。

(答弁)

年度当初に全ての家庭に「就学援助について」という手紙を配布し、必要な家庭には個別に必要書類を配付している。

前年度に申請があり、今年度の申請がない家庭については、提出を忘れていないかの声掛けを行うこともある。また、教材費等が未納の家庭には、懇談会等の機会にも案内をすることもある。

(質問)

体育館の空調整備について、入札不調が多く発生しているが、なぜなのか。

(答弁)

令和6年度から8年度までの3年間で体育館への空調を設置する予定としており、その事前設計を行っているが約80ヶ所と非常に多く、市内の業者が手一杯になっていると聞いている。

(質問)

坊勢小学校の長寿命化改修工事の入札不調による事業中止についてはどのような原因なのか。

(答弁)

令和5年度はそれ以外の地域で比較的多くの工事も発注しており、業者がそれらを優先したことや離島の影響もあると思う。

(質問)

計画通りに実施できるのか。

(答弁)

現在、営繕課を中心に工事を進めているが、入札が不調であったとしても、翌年度に繰り越すなどして工事の調整を行っており、今のところ3年間で設置を完了するという方向に変更はない。

引き続き、工事が円滑に進むよう営繕課とも調整しながら対応していく。

(質問)

給食費について、前年度に比べて未収金が増え、来年度には値上げが予定されているので、ますます増えるのではないか。全国的にも給食費の無償化を進めている自治体も多い。3人目以降だけでなく、小中学生

全員無償してもらいたい。それが難しいのならば、せめて中学生だけでも優先的に取り組むことはできないのか。

(答弁)

全ての生徒児童の給食を無償化するためには、多額の予算を要するため、本市の子ども政策を総合的に判断する必要がある。

まずは中学生から無償化するという意見もあるが、国や他都市の動向を注視し、国の補助金活用を視野に入れ、検討していきたい。

(要望)

せめて給食費の値上げは回避してもらいたい。

また、無償化の対象拡大にも取り組まれたい。

(質問)

夢前学校給食センターの運営経費に約1億9,200円を要しているが、給食配膳員は今も配置しているのか。

(答弁)

配置している。

(質問)

全ての学校に配置しているのか。

(答弁)

そのとおりである。

(質問)

外国人学校・児童生徒に対する就学援助について内訳を教えてもらいたい。

(答弁)

学用品費や校外活動費等の援助として、初級部への給付が50万830円、中級部への給付が49万3660円となっている。

(質問)

対象校はどこなのか。

(答弁)

西播朝鮮初中級学校である。

(質問)

全国的にも問題提起されており、大阪ではこの援助を廃止していると聞いているが、本市は引き続き継続していくのか。

(答弁)

現在のところ、廃止の検討はしていない。

(質問)

本市と当該学校とは、年間を通じた交流が行われて

いるのか。

また、教育委員会も定期的に当該学校を訪問しているのか。

(答弁)

教育委員会が直接訪問することはないが、当該学校と地域の公立小中学校とは交流活動を行っていると認識している。

(質問)

就学援助を行っているのであれば、教育委員会として実態把握を定期的に行うべきではないのか。

(答弁)

今後検討していきたい。

(質問)

部活動振興事業費について、部活動の地域移行が進む中で、この事業費の取扱いはどのようになるのか。

(答弁)

部活動はまだ一定の活動を続けるので、これに関連する経費は引き続き事業として残る。地域移行に関しては、また別の事業として扱うこととなる。

(質問)

文化財保護顕彰費中の保護顕彰費、文化財調査保存活動経費、文化財散策ルート整備費、史跡保存整備事業費、埋蔵文化財発掘調査費、文化財保護顕彰活動助成事業費、文化財保存修理助成事業費の内訳を説明してもらいたい。

(答弁)

保護顕彰費の主なものは、市有文化財の保護管理経費 1,308 万 4,013 円、昨年度の世界遺産 30 周年記念事業経費 905 万 1,927 円、埋蔵文化財センターでの活動経費 552 万 7,542 円である。

文化財調査保存活動経費は、年 2 回の文化財見学シリーズを発行経費である。

文化財散策ルート整備費は、説明板を 3 基新設し、散策ルートの整備を行うための経費である。

史跡保存整備事業費は、置塙城跡整備経費 2,472 万 6,000 円、これは置塙城の石垣崩落の整備に要した費用である。また、見野古墳群の石室のひび割れによる崩落の可能性があるため、測量を行った経費が 341 万 7,267 円である。

埋蔵文化財発掘調査費は、国等の事業費が 404 万円、受託事業として民間開発による発掘調査費 2,033 万

9,761 円、市の単独事業費 654 万 2,521 円である。

文化財保護顕彰活動助成事業費は、文化財課が 24 団体に 107 万 5,000 円、埋蔵文化財センターが 9 団体を対象に 40 万 5,000 円を助成したものである。

文化財保存修理助成事業費は、文化財課の船場本徳寺表門などの修理費など 3,467 万 6,500 円、埋蔵文化財センターの修理助成費 131 万 6,826 円である。

(質問)

見野古墳群の話があつたが、特定の史跡に毎年継続して財政支出は一般的なのか。

(答弁)

複数の団体が保存修理を行っており、申請団体に対して市が助成を行っている。

(質問)

市立高校は市民の税金で成り立っているので、市外の受験生に対して、受験料を上乗せすることも可能と思うがどうか。

(答弁)

姫路市の生徒が神戸市や明石市の市立高校に進学する例もあり、その際に高い受験料や入学料を支払っているわけではないので、本市も同様に市内外の生徒を同じ金額で受け入れている。

(質問)

本市から市外の市立学校に通うケースもある一方で、市立高校ではかなりの人数を受け入れていると思う。思い切って受験料や入学料を市内外で差別化してもよいと思うがどうか。

(答弁)

少子化が進む中で、市外の生徒に受験料を上乗せすると入学希望者が減ってしまう可能性がある。

また、市外の生徒でも卒業後に本市で就職する人も多くいるので、市内外で差別化しない方がよいのではないかと考えている。

(質問)

受験料を上げたら受験者が減るというのは消極的な考え方である。

今後、市立高校を統合し、特色を出していくのであれば、受験料が高くても入学したいと思ってもらえる学校にすることが重要と思うがどうか。

(答弁)

魅力の向上は別の話である。

特色を出し、魅力を高めていくべきだと思うが、最初の入口である受験の段階で人を減らしてしまわないようにすることが重要だと考えている。

(意見)

市民の大切な税金で運営されているという大前提がある。市の単独事業とを考えると、若干の差をつけることには問題がないと思う。

(質問)

あかつき中学校について、市立夜間中学校広域受入負担金 116 万 5,000 円は各自治体からの負担金なのか。

(答弁)

そのとおりである。

(質問)

市外から何人ぐらい受け入れているのか。

(答弁)

県内 6 市から 15 人を受け入れている。

(質問)

生徒の年齢構成と外国人の割合について説明してもらいたい。

(答弁)

令和 6 年度は 34 人が在籍しており、10 代 13 人、20 代 11 人、30 代以上は 1 人から 2 人、最年長は 90 代である。なお、日本人は 15 人、外国籍は 19 人である。

(要望)

県内で限られた夜間中学校の 1 つとして、市内に限らず、播磨圏域から来ていただくことは大変よいことである。授業内容も含めさらに充実させ、より多くの人々に通ってもらえるような学校となるよう取り組まれたい。

(質問)

小学校と中学校の建設費について、小学校は、国庫補助金が 20 億から 22 億円程度で推移しているが、市単独事業費は 5 億から 6 億円程度で少しづつ増えている。

一方で、中学校の国庫補助金はかなり減少し、市単独経費が微増している。国庫補助金をしっかりと活用すべきと思うが、国庫補助事業と市単独事業のすみ分けについてどのように考えているのか。

(答弁)

学校施設の改修については、財政課との調整も必要

であるが、原則として補助金を活用するという考え方である。近年は、国の補正予算が年末や年明けに行われることが多い、令和 6 年度に工事を予定していたものを前倒しして、令和 5 年度の事業として補助金を取りに行く形になっている。

それ以外については、学校体育館の空調設備については補助金ではなく、有利な起債を活用していこうという考え方である。

(要望)

今後は長寿命化対策が大きな課題となると思う。しっかりと補助金を取りに行き、しっかりと取り組みたい。

(質問)

科学館について、委員会の報告の中では科学館の入館者数の達成状況が C、ロボチャレンジ本番グランプリ参加者数、移動科学館や天文教室の実施回数が B という厳しい評価がなされている。

科学館は姫路市の中で生涯学習施設として非常に優れた施設であり、市民だけでなく市外から多くの方が訪れているが、入館者が減少し、企画している教室やイベントの参加者が大きく減少している現状を見ると、時代に合っていない部分や P R が不足している部分があるのではないかと思う。

多額の予算をかけて事業を進めている中、何らかの対策が必要であるが、令和 5 年度の評価と今後の対策について説明してもらいたい。

(答弁)

入館者数は、コロナ禍の影響で大幅に減少した時期があったが、少しづつ回復傾向にある。

令和 5 年度の目標値には達していないが、コロナ禍前の水準まで増えてきている。

ロボチャレンジやゴム・ワングランプリなどのイベントについては、開催回数の減少や高校生の参加者が減少している。コロナ禍でノウハウが継承されず、参加者が減っている状況であるので、今後どのように進めていくか検討が必要である。

今後の対策としては、プラネタリウムの更新や展示の入替えを検討し、科学館の魅力を積極的に発信していきたい。

(要望)

コロナ禍の影響があったとのことだが、科学館には

優秀な学芸員や専門家が在籍しており、プラネタリウムもある。科学に親しむ第一歩となるとてもよい施設であるので、様々なアイデアを盛り込みながらしっかりと取り組まれたい。

教育委員会終了

12時25分

【文教・子育て委員会の意見取りまとめ】

意見取りまとめ

12時30分

・分科会長報告について

正副分科会長に一任すべきものと決定。

閉会

12時31分

【文教・子育て委員会の協議】